

## 2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### ① 昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題への取り組み

評価項目	具体的な取組状況
「IV保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」	<p>○来年度に向けて、写真を話し合いや伝えあいの中でどのようにいかしていくのかを決めていく</p> <p>→「危険な場面」を共通認識することで、保育者1人ひとりのスキルが高めていく</p> <p>→子どもたちの「危機管理能力」「危険回避能力」を高めることへつなげていく</p>

#### 【1回目の自己点検・自己評価を通して】

今年度は「IV保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」を重点項目とした。

<7月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

・4-③「幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもてるよう支援している」について。コロナ禍で今まで行っていた小学校の先生を交えた研修会ができなくなり、職員がどのように考え意識しているかがわからないところがあった。8/4 幼保小連携研修会と8/19 佐藤先生の研修会にて、幼小連携についてや10の姿から就学に繋がることを研修内のグループワークで学びを深める機会を作ることにした。

#### 【研修会】

<8/4 幼保小研修会 内容>

○幼児教育センターの役割と幼保小連携について」研修会

<東京家政大学 佐藤先生研修会 内容>

○「子どもの育ちを可視化する保育記録」研修会

#### 【職員アンケートより】

- ・今行っている体験、遊びが小学校への学びに繋がっていると理解できた。
- ・グループワークを行ったり、自分自身で考える機会があったことで、“幼保小連携”を難しく捉えすぎていたことに気が付いた。今回の研修で取り組みが明確になったので、保育にどのように生かしていくか考えるようにする。
- ・園内研修という形でできた為、自分が理解しているだけでなく、他職員が知る機会で作れていると感じた。
- ・3年ぶりに幼保小連携研修会を開催することができ、職員が幼保小連携について学べた。
- ・コロナ前は色々な活動があり、「そういえばこんなことをしていた！」思い出すきっかけになった。また、新しく何か始めるのではなく、今までやってきたことを工夫して活かしていきたい。

#### 【まとめ】

4-③の項目「幼小連携の意義やあり方について興味・関心を持っている」について  
 幼保小連携への興味関心を持って知ることができたか、10の姿を用いて保育を行うことを意識する大切さを知ることができたかアンケートをとった結果、全体的に評価が良かった。  
 2回の園内研修を経て、幼保小連携と聞くと難しく捉えていた職員が普段の保育が幼保小連携に繋がっていることに気づくことができ、硬く思えた幼保小連携への壁も砕けたと感じる。それと共に、興味・関心にも繋がった。また、具体的に保育に生かせることも考えることができたことで、4-③の項目については改善が見られたと考えられる。

#### 【2回目の自己点検・自己評価を通して】

<1月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

度重なる園児を巻き込む事故や事件に対し、園の職員全体で子どもの権利の共通理解や安全対策について自分たちの保育はどうか振り返る機会とするため、必要な項目だけを抜粋して自己点検を行いました。分析の結果、評価の低くなってしまった大項目Ⅱ-3「保育の在り方幼児への対応」Ⅶ-3「保育の在り方、3歳未満児への対応」では、現行の文言を額面どおり受け取ると、低くならざるを得ないと考えられる。各年齢による関り方の違いとは？ありのままの姿とは？受け入れることだけが子どもの育ちに必要なのか？などをグループディスカッション(GD)をして話し合うこととした。また文言についても職員全体で話し合って修正していくこととする。

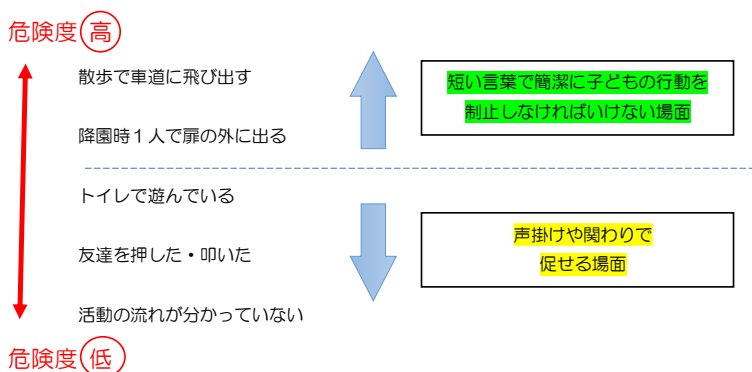
## 【グループディスカッションを通して】

### <A グループ>

①どのような場面で禁止語を言ってしまうがちなのかをみんなで日々の保育を振り返った。

場面	保育者の言葉	保育者の態度
散歩で車道に飛び出す	危ない！	大きな声で
降園時1人で扉の外に出る	ダメ！	腕をひっぱる
トイレで遊んでいる	遊まないよ！はやく！	急かすように
友達を押した・叩いた	いけないよ！	怒った表情で・謝罪を促す

②このように様々な場面がある中で、適した声掛けであるのか？や、より良い伝え方は他にあるか？を話し合い「短い言葉で簡潔に子どもの行動を制止しなければいけない場面」と「声掛けや関わりで促せる場面」を危険度別に分けた。



③危険度が高くなるほど、子どもの命を守るために短い言葉や、時には禁止語を使ってでも子どもの行動を制止させる必要があるのだと確認した。それらの場面でも、子どものより良い学びとなるようにどのような言葉がけや関わりができるのか改善策を考えた。

保育者の言葉	保育者の態度	改善策
危ない！	大きな声で	・意識して欲しい交通ルールを替え歌にして伝える ・危ない！と大声を発した後、寄り添いながらも「びっくりしたね」「怖かったね」と気持ちを受け止める。その後状況を整理して子どもへ伝える。
ダメ！	腕をひっぱる	・脇の下から両手で止める ・抱き止める
遊ばないよ！ はやく！	急かすように	・「お部屋で～しているよ！」と次の活動に楽しみや期待を持って気持ちを切り替えられるように声掛けをする。
いけないよ！	怒った表情で 謝罪を促す	・「どうしたの？」「何かあったの？」と個々の気持ちを理解しようとする。 ・性格やペースを理解して関わる。

表にある保育者の言葉や態度は、現在問題となっている不適切な保育に該当する関わりとなる可能性もあるとみんなで確認できました。改善策のような関わりや声掛けなど子どもへのフォローを意識し、子どもの学びや活動意欲に繋げていく事が重要だと感じた。

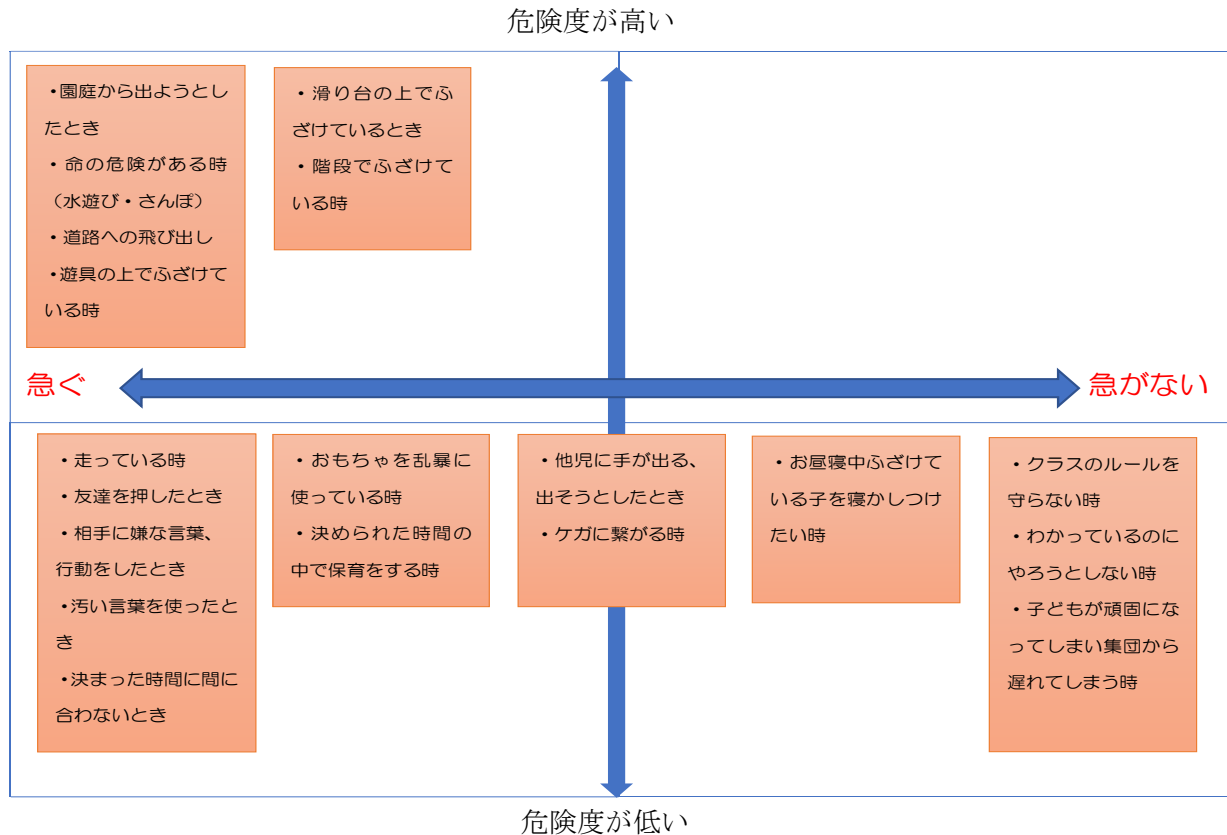
「短い言葉で簡潔に子どもの行動を制止しなければいけない場面」と、「声掛けや関わりで促せる場面」を見分けることの大切さを共有できた。言い換えられる禁止語は言い換えたり、保護者への分かりやすい状況説明を意識し、園や保護者、子ども自身などみんなで安全を保っていく事の重要性を共有した。

### <B グループ>

①禁止・命令・行動を急がせるような言葉、自信を失ってしまうかもしれない言葉や態度はどんなものがあるかを考えて出し合った。

**言葉** 危ない・やめて・ダメだよ・早く・急いで！もう知らない・また〇〇なの？・〇〇ばかりして・  
**態度** 何も言わずじーっと見つめる・強い口調になる・あきれる・期待しない・返答しない・置いていく・抱っこしない（怒っている時、子どもに非があり泣いている時）

**場面** 危険な行為をした時（他児をケガさせた時、ぶつかりそうになった時、アスレチックで他児を押し  
たとき）・次の活動まで時間が迫っている時・他クラスを待たせている時・おもちゃの取り合い・体を動  
かしている時・集団から遅れている子がいる時・子どもの注目行動・お昼寝の時間・注意しても同じこ  
とを繰り返している時・オムツ交換・1人で保育に入っている時  
ここから、禁止語が必要な場面はないのか？必要な場面があるとするとどのような場面なのかを考え、  
緊急度が高いもの・低いもの、急ぐ場面・急がない場面にグループ分けをした。



禁止語が必要だと思う場面を表にすると、すぐに使わなければいけない場面と、使わなくていい場面に分けられた。そのことから、言わなくてもいい場面が見えてきたりどんな場面で禁止語が必要なのか、どんな言葉に緊急性があるのかをグループ内で共有することができた。そこから、必要な場面で禁止語等を使った時には、どのようなフォローをしているのか、言い換えられる言葉はないのかを考え、意見を出し合いました。

### **フォローの方法**

- ・注意してできたところ褒める
- ・言葉を選んで理解しやすい言葉に言い換える
- ・何が嫌だったのか聞き、共感する
- ・クラス全体にも共有して考える時間を設ける
- ・一段落したらスキンシップをとる
- ・クラスルールを確認する機会を大切にする
- ・どうしたらよいか提案する
- ・注意した後何がいけなくてそれをするとどうなるかかきちゃんと伝える

### **言い換えられる言葉**

- ・ダメ→嫌な気持ちになるよ
- ・危ない→ケガするよ、痛くなるよ
- ・早くして！→みんなが待ってるよ、楽しいことが待ってるよ、タイマーを使って競争しゲーム感覚で素早く行う
- ・先回りして伝えておく
- ・走らないで→ゆっくり歩こうね
- ・反対のことを言う
- ・「先生ひとりだから協力してね」と伝える

上記を踏まえて自己点検・自己評価の大項目Ⅱの①⑥⑦と大項目Ⅶの①④⑤の文言を  
Aグループ・Bグループとの表現を合わせて項目の文言を修正しました

Ⅱ、保育の在り方、幼児への対応 3指導と関わり

- ①幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めようとしている
- ⑥保育者が幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉がけをしている
- ⑦禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている

↓

- ①幼児一人ひとりを受け止め、保育者が幼児をほめたり、励ましたり、意欲を持たせるような言葉掛けをしている
- ②不必要に禁止語を用いないようにし、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている

Ⅶ、保育の在り方、3歳未満児への対応 3指導と援助

- ①落ち着いた雰囲気の中で抱いたり、語りかけたりして、乳幼児が人との関わり楽しさや心地よさを味わえるようにするようになっている
- ④自分を表現する力が十分でないこどもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感がもてるように心がけている
- ⑤禁止語を不必要に用いないようになっている

↓

- ①乳幼児が、人との関わり楽しさや心地よさを味わい、安心感と自己肯定感が持てるように心がけている
- ②不必要に禁止語を用いないように心がけている

【学校関係者評価委員会メンバー】（敬称略）

アドバイザー：東京福祉大学准教授 鈴木美子

小宮山 仁	南魚沼市教育委員会 管理指導主事	五十嵐 哲也	塩沢小学校校長
林 正栄	元中学校長・塩沢区長	小野澤 宣博	当園 PTA 会長
宮田 高行	当園 PTA 副会長	上村 真史	当園 PTA 副会長
事務局	角谷金城幼稚園長	角谷金城保育園長	担当：瀬下教頭 担当：貝瀬主幹保育教諭

3、来年度へ向けて

具体的な取組状況

園生活の中で、こどもたちへの関わり方や言葉掛けが「不適切な保育」に該当していないかを意識し、自他ともに確認していく。

安全のために禁止語が必要な場面なのか、声掛けや関わりで促せる場面なのかを考え、言い換えられる禁止語は言い換える。必要な場面で禁止語等を使った時にはこどもたちへのフォローや保護者への分かりやすい状況説明を行っていく

#### 4、学校関係者の評価

・自己点検・自己評価で、保育者が自分達の保育の「できていない点」について低い評価をつけている点がとても良いと感じた。人間は弱いところは隠したくなるものであるが、できていないことを声に出して言える園はとても良い。ぜひ継続して行って欲しい。

・年少組のスキー教室の日程の中で一日、寒波の日があった。コロナ禍もあり社会全体がリスクを避けたがる傾向が強くなっている中、安全を確保しながらも子ども達のためにできることに取り組んでいこうとする園の姿勢は、保護者としてとてもありがたい。子どもにとって良い経験になったと思う。

・保育園留学がとても良い取り組み、継続して取り組んで行って欲しい。

・3年間、PTA 役員として学校評価委員会に関わらせてもらい、先生方一人一人や園全体として子どもの事を考えて日々保育に取り組んで下さっていることがよく理解できた。委員のメンバーになったからこそ知ることができた部分も大きく、とてもありがたく思っている。

・一つのチームとして自己点検・自己評価に取り組む事を大切にしている園だと感じる。園の中のリスクについて職員全員で解決していく姿勢が素晴らしい。特に今回は、全国的に話題になっている虐待やバス事故に焦点をあてて園内研修を行っており、大変素晴らしい。継続して行って欲しい。

・金城幼稚園・保育園では、春の遠足で住吉神社を訪問する活動がここ数年定着してきている。地域の環境を理解し、活用する取り組みは今後も続けて行って欲しい。園児と触れ合った地域役員も、『また園児が来るから神社を掃除しよう』など楽しみにしている。

・子どもへの声かけや関わる姿勢は教員の技術として身につけなければならないものであるが、根底には子どもへの愛情や子どもの人格を尊重する姿勢がなければならない。とても大切なこと。今回の取り組み、とても素晴らしい。

・この地域の方々の生活の温かさを改めて感じた。子ども達のことをよく考え、園と保護者が日々を積み重ねていることが皆さんのお話の中で読み取れた。連携している教育機関、地域の方の存在もとても心強い。

・本日の保育参観時に子ども同士のトラブルがあり、個別に保育者が対応している場面があった。とても丁寧な対応をしていた。またその様子を見ていた他の子が遊びを中断してその子の傍に寄り添い、背中をさする姿を見た。とても良い姿だった。

・先般、不適切保育が社会問題として話題となったが、これだけの取り組みをしている園もあるということを知ってほしい。園として、もっと情報を発信して行って欲しい。私も学生に伝えていきたい。

・“小学校との連携”という部分でこの委員会メンバーとして参加させていただいているが、これらの内容を学校の中で共有できているかについては、まだこれからの課題と思っている。より密に保幼小連携に取り組み、小学校の生活に繋げていけたらと思う。

#### 5、苦情解決結果

令和4年度は苦情が2件ありました。

○便や嘔吐のついた衣類の消毒について

①便がついた衣類を園で消毒してもらった際、衣類が色落ちした。規定量を上回る量で消毒をしたのではないか？

→消毒方法に誤りがないか園内及び保健所に確認し、問題がなかったことを報告。消毒に関する色落ちに関しては年度初めにも保護者にお伝えし、消毒の希望の有無を確認しているが、再度全園児保護者に手紙を配布。

②便がついた衣類を園で消毒してもらったが、降園時に伝えてもらえなかった。帰宅してから電話にて翌日持って帰るように言われた。翌日持ち帰ったビニール袋には消毒とともに大便が大量についていた。服が汚れるたびに消毒してもらおうと着る服がなくなる。

→消毒をした衣服の当日の返し忘れについて謝罪。園では感染拡大防止のため便のついた衣服を洗えないことを説明。全園児保護者に消毒希望の有無を紙面にて確認。園での消毒方法や嘔吐物、便の感染の恐れについての手紙を配布。

→令和5年度からは園での消毒を廃止し、家庭で消毒をいただくことにする予定です